株式会社ゼロワン

理想の会社の追求が女性エンジニアも活躍する環境に
人間力を高め徹底した技術領域で開発ニーズに対応中

システムのコアとなるハードウェアに近い領域に特化したシステム開発事業を展開する株式会社ゼロワン（神奈川県横浜市）。代表取締役・高橋智明氏が、理想とする会社をつくるべく20年前に設立、社員の働きやすさを追求してきた職場環境は、業界では珍しいほど多くの女性エンジニアが活躍する場にもなっている。そんな同社を訪ね、高橋代表に話をうかがった。

代表取締役　**高橋 智明氏**

リーマンショックで組込み領域を徹底する方向に

制御・組込みシステム開発を専門とするゼロワン。「もともと組込みエンジニアとして普通にサラリーマンをしていた」代表の高橋智明氏が自身の理想とする会社をつくるべく設立した会社だ。退職当初は多様な会社と関われる派遣エンジニアとして理想にかなう転職先を探したそうだが、派遣先の1社から“一緒にやらないか”と声がかかったことをきっかけに起業、設立に至っている。

「最初は個人事業主として独立して始めましたが、企業との取り引きを考えそのまま会社にしてスタートしました。幸い派遣で知り合った方々から“会社を始めるならぜひ一緒に”と言っていただいて、数名の方に入社していただきました」。それから20年、いまは20名ほどのエンジニアが客先常駐や受託で、自身の持てる技術を発揮しシステム開発に取組んでいる。

得意としているのはハードウェアに近い領域。制御ファームウェアやデバイスドライバ、ミドルウェアが電子部品やマイコンを制御する階層だが、事業を展開するうえでこのレイヤーには強くこだわっている。そのきっかけとなったのはリーマンショックだという。米国の大手投資銀行リーマン・ブラザーズの経営破綻をきっかけに世界中が金融・経済危機に陥った。「会社を立ち上げて3年目、他にもこなせる仕事はあり特にこだわりもなかったのですが、案件が縮小するなかで小さな会社ながらも何かに突出した技術を持つべきだなと痛感しました。自分のキャリアも当時の社員も組込みエンジニアなので、徹底して組込み技術に特化していくことで差別化しアピールしています」

一時期はI/Oボードなど内製化していた自社製品も整理し、一括で受注したうえでパートナー会社と連携して進める体制とした。いまは開発体制を、現場にエンジニアが出向き技術を提供するSES（システム・エンジニアリング・サービス）、受託開発、OEM・ODMの3事業として企業の開発ニーズに応えている。

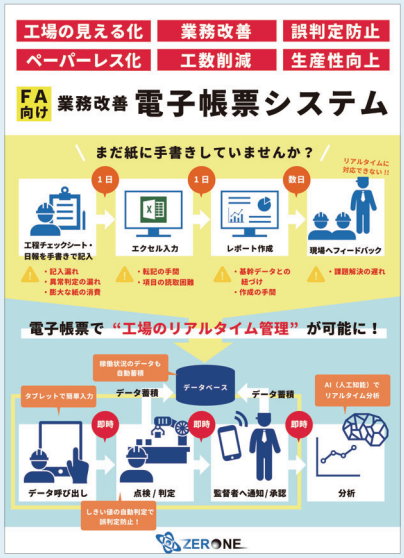
ならではの就業体制で女性をサポート

高橋氏が思う理想の会社は「仕事にやりがいを感じることはもちろん、成果や実績に対し正当に評価されることがいちばん大事」と考える。時代とともに働き手の意識が多様化するも、自身が正当な視点で評価されることは誰であってもモチベーションが高まるはずだ。

女性エンジニアが多いことも同社を語るうえで外せない特徴のひとつ。実に半数を女性エンジニアが占める。きっかけは、システムの動作を検証するテスターのパート採用だった。「パートは業界的にも珍しいでしょうが、たくさん雇用しました。そういう状況下で学生向けに説明会をおこなうと、男性は常駐先で不在だし女性ばかりが目に付くので、女性が活躍している会社とのイメージが付き、また女性が応募してくる、という循環も生まれてきました。それに場所の利点があると思います」と続ける。

会社のある横浜市都筑区は、生活の利便性や子育て環境の良さなど住みやすい街として県内屈指の大人気エリア。製造業の工場が立地していることから「大手企業の社員も多く住んでいて、結婚を機に退職された方がまた働きたくなってパートで入ってくるパターンもあります」

女性ならではのライフスタイルに合わせた就業体制を考慮し、働きやすい環境をサ



FA向けシステムの開発例。
今後FA関連の開発案件は増えるとみている

年１回実施している社員旅行での一コマ。
任意ながらほとんどの社員が参加しているという

自慢のF1マシン模型を掲げる高橋氏

ポートする。高橋氏は女性エンジニアについて「女性はユーザー目線で使いやすさ、便利さのアイデアが出せる点が男性にはない。男性はどうしてもエンジニア目線になって不要な機能を持たせがちですから」と評価している。

最先端分野やFAにも技術を発揮

ゼロワンが対応する技術領域はシステムのコアとなる部分。応用分野は、その上のレイヤーであるアプリケーションによって多岐にわたる。空中ディスプレイという最先端技術の事例もその一つ。「映像など空中に表示されてモーションセンサーでタッチ操作ができる仕組みで、最近案件が増えています」。知り合った会社がきっかけでコネクタ製造装置などFA関連にも対応している。飲料系工場向け滅菌機の製造の相談もあり今後さらに増えてくるとみている。「FA分野は技術者の高齢化が進み、人材が減少しています。新しく設備を入れ替えたくて業者を探しているという会社も多い」とし、そうしたニーズの受け入れ先として機能していく。

車系の実績もある。イベントで展示される1台だけのコンセプトカーなどユニークな開発例もある。「モビリティショーなど展示向けのコンセプトカーは自動車メーカーが考えたものを試作車として1台だけつくりますが、近所にある車両全体を手がけるメーカーからの依頼で伝送まわりの制御を担当しました。コンセプトカーはいまの技術で未来をどう表現するかという話で、タイヤの裏側にコンセントが付いていたり自動と見せかけ実は陰から手動で動かしたりすることもあります」と裏話も教えてくれた。ちなみに高橋氏は無類のクルマ好きという。なかでもF（フォーミュラ）1は夢中になれるほどハマっているそうだ。

社員交流を重視し受託事業へのシフトを見据える

そんな高橋氏は、今後は受託開発事業を伸ばしていきたいと考えている。受託開発メインの会社は自社製品開発を目指すなど受託からの脱却に向かう会社が多いが、そうした発想とは異なる。その意図にも高橋氏の理想の会社像への追求が感じられる。「経営的な観点からすると毎月安定した収益が見込めるSES事業は利点がある反面、社員はほとんど会社にいないので帰属意識にも影響しますし、与えられている仕事にやりがいがないと思っていてもコントロールができない。受託にシフトしてそうした状況をなくそうという考えが元々ありました。理想はすべて受託開発に移行することです」。いまは月1回の全体ミーティングと懇親会で交流を温めている。

自身がやりたい仕事をこなしていくには技術力の向上は必須だが、高橋氏は「人間力の向上」も重要と捉え研修の場を設けている。「目標を達成するための技術が基本テーマで、良好な人間関係を築くための手法のひとつとされる選択理論心理学も学びます。正直な話、発注する側は気に入った人に依頼したい。気に入られるかどうかが大きなファクターで、人間関係を学び人としての魅力を高めていきましょうということがベースになっています。年2回の研修ですが、実際次の契約時も頼っていただくなど効果があります」。あくまで社員ファーストな発想が伝わってくるが、福利厚生なども意見を取り入れながら制度設計していくという。

JASAとは過去に若手がETロボコンに参加したり少なからず縁があった。「組込み開発を事業としていながら自分の世界でしか知らない面もあり、自分の知見もそうですが、人脈も広げていけることを期待しています。直接的に仕事につなげることよりも、いろいろな可能性を広げていきたいと思います」。社員のモチベーションを向上させ発展する同社の発想は、刺激になる会員も多そうだ。

●「会社訪問」のコーナーでは、掲載を希望される会員企業を募集しています。お気軽にJASAまでお問い合わせください。